



JETRO

湖北省・武漢市 概況説明資料

2025年5月

日本貿易振興機構（ジェトロ）
武漢事務所

目次

<u>1. 湖北省・武漢市の概況</u>	3
<u>2. 武漢市の5大ポイント</u>	9
2-1. 交通の要衝、武漢市	11
2-2. 若者が多い街、武漢市	14
2-3. 消費市場として成長を続ける、武漢市	15
2-4. ハイテク産業の集積が進む街、武漢市	16
2-5. 自動車産業都市、武漢市	17
<u>3. 湖北省（武漢市）進出日系企業の動向</u>	23
<u>4. 湖北省進出日系企業の動向と課題</u>	25
<u>5. まとめ</u>	29



1. 湖北省・武漢市の概況

1.湖北省の概況

湖北省は中国中部地域に位置、自動車関連産業の集積地

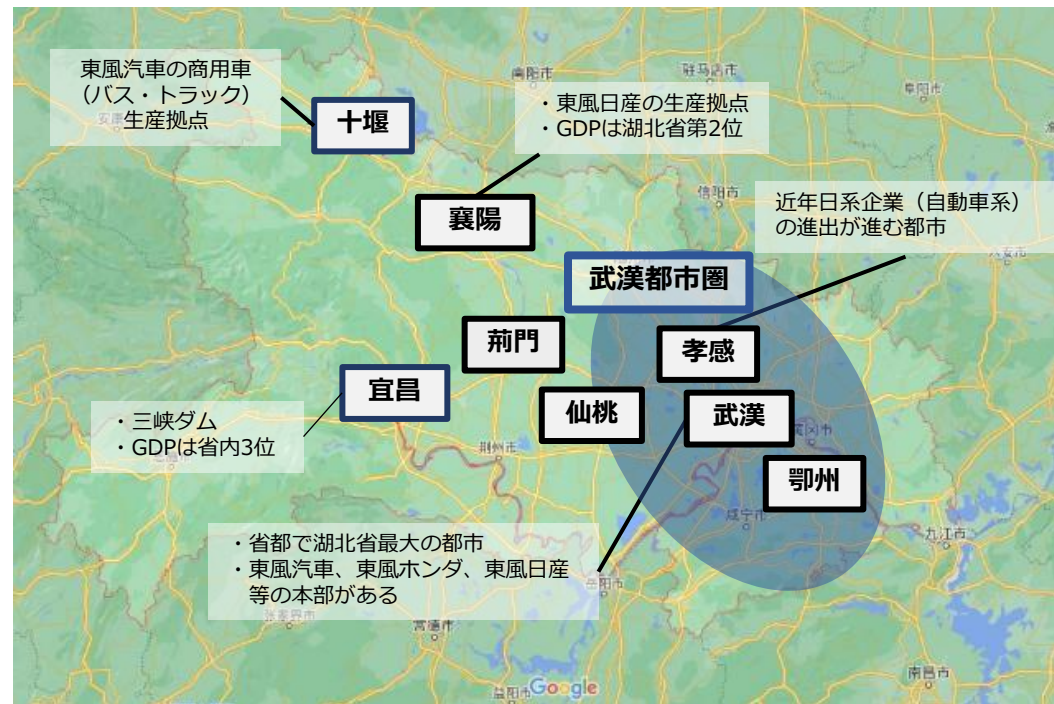
- ・湖北省は中国中部地域に位置しており、北京、上海、広州といった国内主要都市へのアクセスが容易（上記いずれの都市にも高鉄で最短約3時間半～4時間でアクセス可能）。
- ・省内には全部で17の地級市、自治州、直轄市、林区があり、武漢市は副省級市（※）に指定されている。
- ・武漢市および周辺地域は自動車関連企業が集積しており、省全体として自動車産業の集積地となっている。
※省の管轄下にあるが、経済、財政、法制面で省と同程度の自主権が認められている。

湖北省と他都市 （北京、上海、広州、成都）の位置関係



出所：Google Map

湖北省の主要都市とその特徴

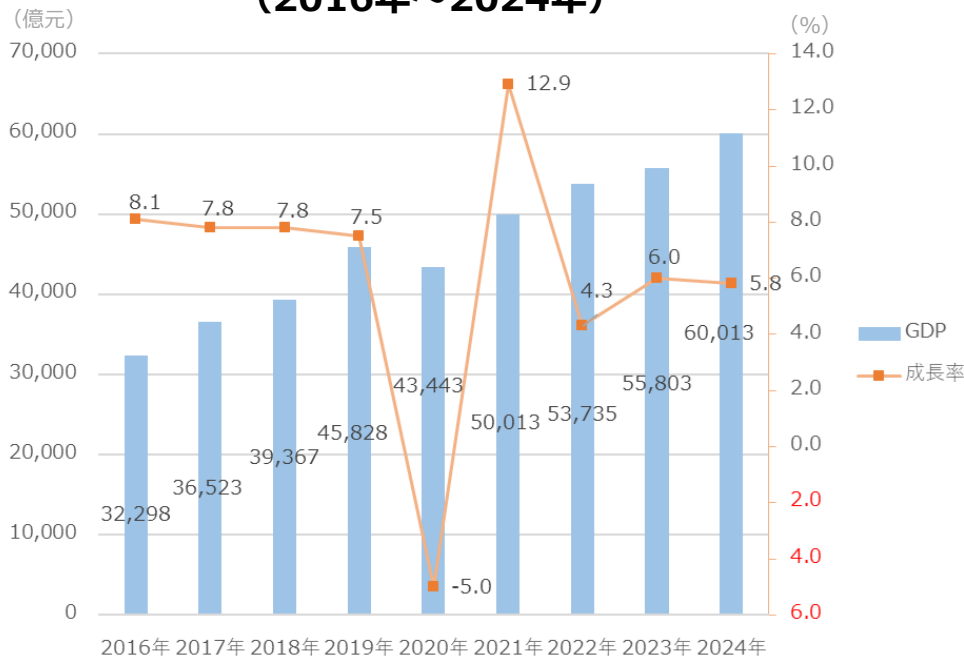


1.湖北省の概況

湖北省経済はコロナ禍以降堅調な成長を見せる

- 湖北省は、ジェトロ武漢管轄の中国中部地域（河南省、湖北省、湖南省、江西省の計4省）において河南省に次いで2番目の経済規模。
- 2024年の域内GDPは前年比5.8%増と堅調な伸び。社会消費品小売額は2023年に新型コロナウイルス感染拡大前を超える水準に回復し、2024年も引き続き前年比5.1%増となった。

湖北省におけるGDPの推移
(2016年～2024年)



出所：湖北省統計データを基にジェトロ作成

湖北省に関する各種データ（2024年）

指標	数値	前年比 (%)
面積	18.6万km ² （本州の約8割）	—
人口	5,834万人	—
GDP	6兆12億元 (約128兆5,600億円) ※1元 = 21円で計算	5.8%
社会消費品 小売総額	2兆5,276億7,000万元	5.1%
都市住民 一人当たり 可処分所得	4万6,987元	4.4%
貿易額	7,058億4,000万元	9.6%
(輸出額)	4,863億元	12.4%
(輸入額)	2,195億4,000万元	3.7%

出所：湖北省統計データ

1. 武漢市の概況

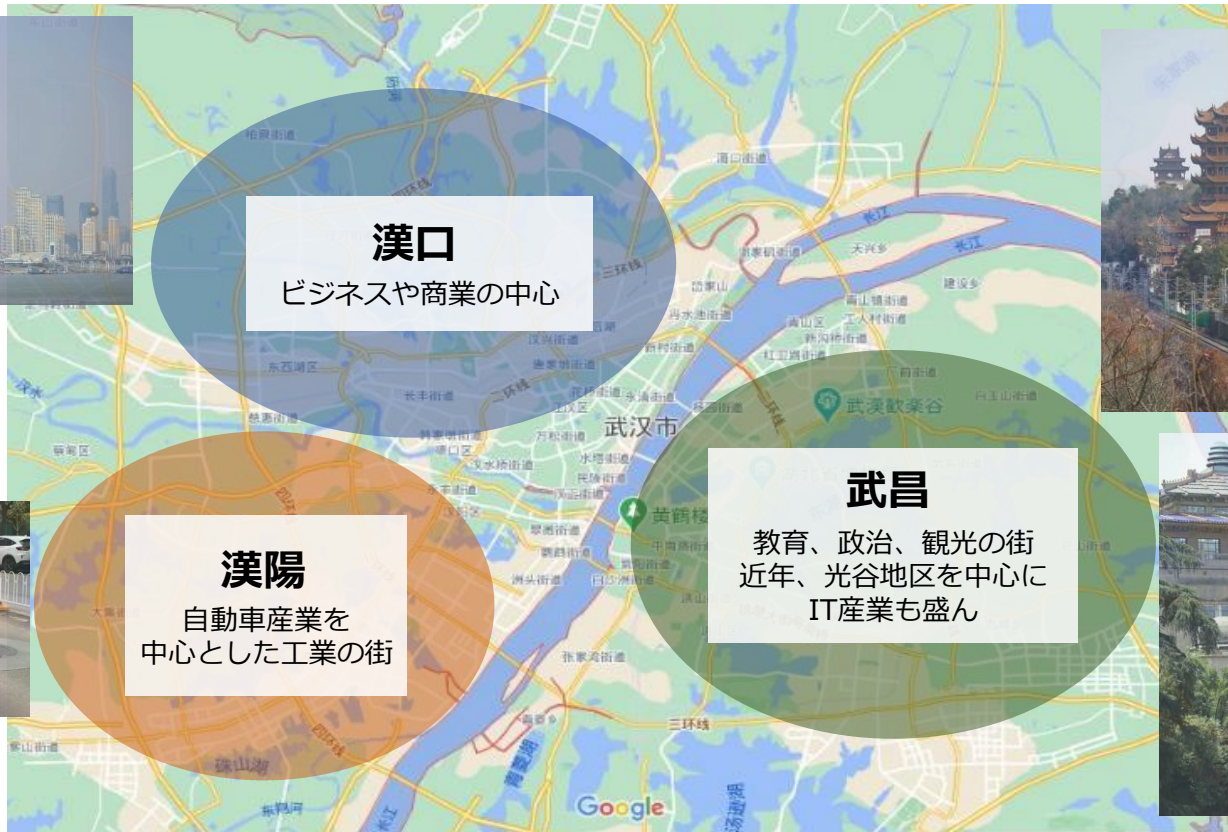
武漢市は3地域から形成、各地域が特色を持つ

- ・ 武漢市は長江流域の「漢口」「漢陽」「武昌」の3地域から形成されている。
- ・ オフィスビルが立ち並ぶ漢口、東風ホンダの工場などが位置する漢陽、武汉大学をはじめとする大学機関が位置し武漢市のイノベーションハブ地区「光谷」を擁する武昌と、各地域が特色を持つ。

武漢市内の各エリア



漢口のオフィスビル群



漢口

ビジネスや商業の中心



代表的な観光地
黄鶴楼



漢陽には自動運転
テストモデル地区が立地

漢陽

自動車産業を
中心とした工業の街

武昌

教育、政治、観光の街
近年、光谷地区を中心に
IT産業も盛ん



武汉大学

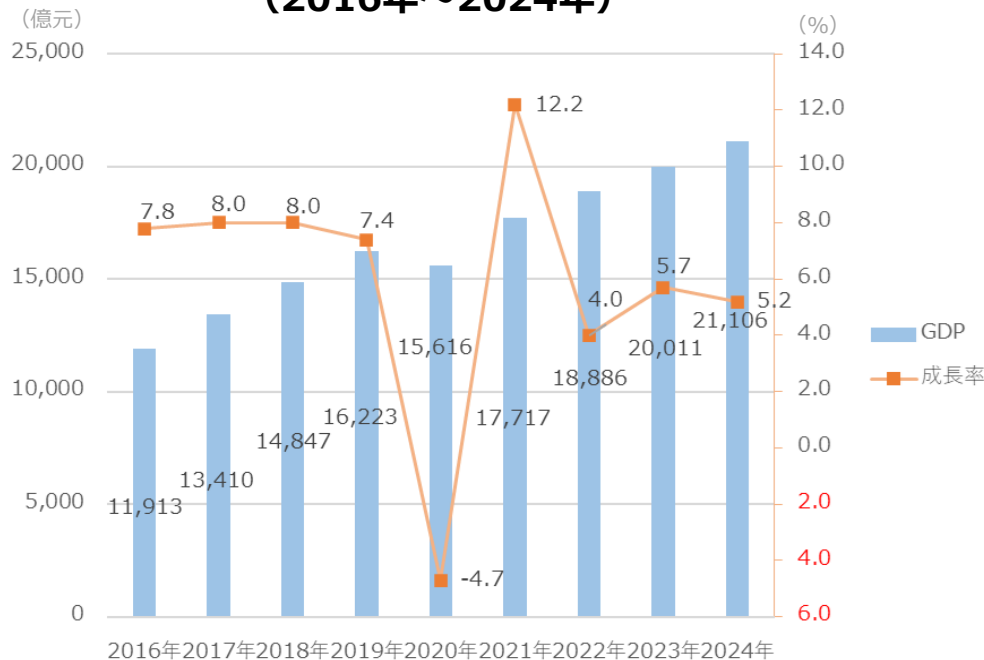
出所 : Google Map

1. 武漢市の概況

武漢市は湖北省の最大都市、政治経済の中心地

- ・ 武漢市は湖北省の人口の約2割、GDPの約4割、貿易額の約6割を占める湖北省の最大都市。
- ・ 貿易額は沿岸部の2～3級都市ほどしかなく、国内市場向けの産業構造となっている。
- ・ 新型コロナウイルスの感染拡大により、2020年1月以降散発的に封鎖措置が行われ、同年GDPにも影響。しかし、コロナ禍以降は年間5%程度の経済成長を見せている。

武漢市におけるGDPの推移
(2016年～2024年)



出所：武漢市統計データを基にジェトロ作成

武漢市に関する各種データ（2024年）

指標	数値	前年比 (%)
面積	8,569km ² （兵庫県とほぼ同じ）	－
人口	1,380万人	－
GRP	2兆1,106億2,300万元 (約44兆3,230億8,300万円) ※1元＝21円で計算	5.2%
社会消費品 小売総額	7,931億8,700万元	5.3%
都市住民 一人当たり 可処分所得	6万4,346元	4.3%
貿易額	4,033億5,000万元	11.8%
(輸出額)	2,622億6,000万元	21.1%
(輸入額)	1,410億9,000万元	▲2.1%

出所：武漢市統計データ

参考：各国GDPランキングと比較した中国中部地域

- ・ GDP上位50カ国・地域の中に、中国大陸から23省・直轄市などがラインクイン。
- ・ 河南省はトルコ、湖北省・湖南省は台湾、江西省はオーストリアとほぼ同程度の経済規模。

(億ドル)

順位	国・地域名	GDP	順位	国・地域名	GDP	順位	国・地域名	GDP	順位	国・地域名	GDP
1	米国	254,645	17	サウジアラビア	11,082	28	アイルランド	5,297	41	パキスタン	3,765
2	中国	181,000	18	オランダ	9,937	29	イスラエル	5,225	42	香港	3,610
3	日本	42,335	3	河南省	9,102	30	アラブ首長国連邦	5,075	43	イラン	3,522
4	ドイツ	40,754	4	トルコ	9,055		陝西省	4,862	44	コロンビア	3,439
5	インド	33,864	5	四川省	8,420	31	ナイジェリア	4,774		内モンゴル自治区	3,436
6	英国	30,706	6	スイス	8,072		江西省	4,759	45	ルーマニア	3,018
7	フランス	27,840	7	湖北省	7,973	32	エジプト	4,752	46	チリ	3,007
8	ロシア	22,153	8	福建省	7,880	33	オーストリア	4,717		貴州省	2,992
9	カナダ	21,398	9	台湾	7,617	34	シンガポール	4,668	47	チェコ	2,904
10	イタリア	20,120		湖南省	7,221	35	バングラデシュ	4,602	48	フィンランド	2,810
11	ブラジル	19,241	22	ポーランド	6,883		重慶市	4,322	49	イラク	2,704
	広東省	19,157		安徽省	6,683		遼寧省	4,299		新疆ウイグル自治区	2,632
	江蘇省	18,231		上海市	6,625		雲南省	4,296	50	ポルトガル	2,524
12	オーストラリア	17,019	23	アルゼンチン	6,322	36	マレーシア	4,079	ジェトロ武漢は 河南省、湖北省、湖南省 江西省の計4省を管轄		
13	韓国	16,653		河北省	6,286	37	ベトナム	4,065			
14	メキシコ	14,141		北京市	6,174	38	南アフリカ共和国	4,057			
15	スペイン	14,005	24	スウェーデン	5,859	39	フィリピン	4,043			
16	インドネシア	13,188	25	ベルギー	5,822	40	デンマーク	3,907			
	山東省	12,973	26	ノルウェー	5,793		広西チワン族自治区	3,902			
	浙江省	11,530	27	タイ	5,362		山西省	3,805			

出所：各国・地域：World Economic Outlook Database, April 2023

中国の省・自治区・直轄市：CEICのデータを基に2022年の平均レートでドル換算



2. 武漢市の5大ポイント

2. 武漢市の5大ポイント

01

交通の要衝、武漢市

古くから交通の要衝として発展。
近年は高速道路、高速鉄道、空路、水運などの交通・物流インフラも整備が進む。

02

若者が多い街、武漢市

大学数が北京に次いで多く、学生数は中国最多。
武漢大学などの優秀な大学が多く、特に理系人材が豊富。

03

消費市場として成長を続ける、武漢市

消費に関連する指標は堅調な推移を見せている。
近年、中部地域の最大都市としてマーケットとしての魅力も高まりつつある。

04

ハイテク産業の集積が進む街、武漢市

デジタル経済の産業発展に注力。
武昌エリア南部に位置する「光谷」はハイテク産業・イノベーションの拠点として開発が進む。

05

自動車産業都市、武漢市

地場系の東風自動車をはじめ、プジョー・シトロエン、ホンダ、日産、GMなどの
大手外資系自動車メーカーが進出。近年は自動運転技術開発の拠点として注目を集める。

2-1. 交通の要衝、武漢市

鉄道・水運を組み合わせた物流に注力

- ・ 中欧班列の武漢駅は、北欧地域やドイツなど欧州諸国の他、近年ではロシアへの貨物輸送も増えている。「メイド・イン・湖北」を打ち出し、自動車部品の輸出などを推進中。
- ・ コンテナ船の貨物輸送は、日本を含む周辺国との路線開拓を続けている。

鉄道

- ・ 北京には高速鉄道で最短4時間、上海や広州には最短3時間30分でアクセス可能。
2018年から香港への直通高速鉄道も開業。
- ・ 鉄道輸送は、2012年から欧州向け「中欧班列」が運航開始。2025年1月時点で武漢発着便は57路線
ユーラシア大陸計40ヶ国119都市をカバーしている。



中欧班列の武漢駅（出所：武漢商務）

水運

- ・ 武漢新港（陽邏港）と門司、神戸、大阪、名古屋を結ぶ直通コンテナ船が2019年11月開業。
2021年10月には延長され、韓国の釜山もルート上に追加された。
- ・ 2025年3月には、自動車および関連部品の輸送を目的とした便が開通。日本や韓国へのコンテナ便輸送も予定。水運と鉄道を組み合わせ、中国内外と一帯一路沿線国へのアクセス拡充を目指す。



武漢-日本を結ぶ直通コンテナ船「華航漢亜1号」
（出所：新華社）

2-1. 交通の要衝、武漢市

空路

- 2017年に中部地域最大級の「武漢天河国際空港第3ターミナル」が開港。
- コロナ禍を経て国際便が減少。2025年4月現在、ロンドン、シドニー、シンガポール、ソウル、バンコク、ハノイ、ホーチミンなど計12カ国の都市と武漢を結ぶ。
- 2025年4月現在、湖北省と日本を結ぶ直行便は、武漢-成田で週5便（中国東方航空、中国南方航空）、武漢-関西で週7便（中国東方航空）がある。
- 2022年8月、アジア最大、世界第4位の規模を持つ貨物ハブ空港「鄂州花湖空港」が運航開始。日本（大阪）も含めてチャーター運行が行われている。
- 2024年10月、鄂州花湖空港の累計取り扱い貨物量は100万トンを突破した。79路線（国内51路線、国際28路線）を有し、海外20カ国32拠点と繋がっている。今後、旅客も受け入れる武漢天河国際空港と貨物専用の鄂州花湖空港でデュアルハブとしての運用を引き続き目指していく。



試験運用の様子（出所：湖北日報）



鄂州花湖空港の様子

2-1. 交通の要衝、武漢市

整備が進む地下鉄網

- 2004年の1号線開通以降、2025年4月現在までに12路線が開通。
総延長518キロを達成している他、現在も引き続き延線工事が進められている。
- 総駅数は312駅。
武漢地鉄（Wuhan Metro）は、最終的に上海や北京と同規模の地下鉄が整備された都市を目指している。

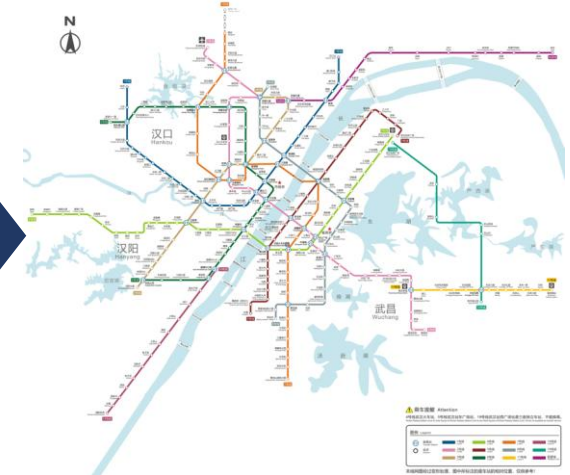
武漢市内における地下鉄網拡大の変遷



2013年



2021年



2025年（現在）

出所：武漢地鉄集団web

2-2. 若者が多い街、武漢市

中国国内で学生数が最も多い都市

- ・ 2025年現在、武漢市には高等教育機関（大学院、大学、短大等）が83校ある。これは北京（92校）に次いで全国2位の数。
- ・ 学生数は約140～150万人。武漢市の10人に1人が大学生、「中国で最も大学生が多い街」とされている。
- ・ 武漢大学、華中科技大学、武漢理工大学、華中師範大学等の有名大学が多く、優秀な理系人材が豊富。

武漢市における年齢別戸籍人口分布図

(2021年末)

男性

女性

48,667	85歳以上	72,508
66,436	80～84歳	85,262
102,350	75～79歳	114,646
191,577	70～74歳	203,528
270,333	65～69歳	291,882
266,878	60～64歳	275,443
371,484	55～59歳	371,579
354,299	50～54歳	356,748
303,035	45～49歳	302,356
327,923	40～44歳	326,315
433,847	35～39歳	421,224
499,835	30～34歳	496,727
361,939	25～29歳	308,947
215,474	20～24歳	168,733
166,940	15～19歳	142,165
207,546	10～14歳	178,234
288,184	5～9歳	252,513
262,247	0～4歳	233,212



観光地としても若者に人気の武漢
(ジェット口撮影)

- ・ 全人口に占める若者（18～34歳）割合は23.3%
- ・ 定住人口ではなく戸籍人口統計のため、外地から武漢の大学に入学した学生はデータに含まれない。

出所：2021年武漢市統計年鑑

2-3. 消費市場として成長を続ける、武漢市

小売り・サービス業における日系企業動向

- ・2014年にイオンモール1号店、15年に2号店、17年に3号店、23年に4号店が開業。今後、湖南省の長沙市も含めて内陸部への出店拡大を予定している。
- ・2014年にニトリの中国店舗1号店が武漢市において開業。
- ・2016年から外資系コンビニとして初めてローソンが進出。武漢市内に現在約600店舗開業。また、19年からセブンイレブンも進出（約20店舗）。
- ・2016年に上海に次ぐ2番目の都市として、日系温泉レジャー施設の極楽湯が進出。18年からホテルも開業。コロナ後は中国資本が買取る形で21年5月営業再開。

外資系企業出店累計（2025年4月）

ブランド	出身国	都市				
		武漢市	長沙市	成都市	重慶市	上海
ユニクロ	日本	26	18	31	20	94
無印良品	日本	24	14	22	16	56
吉野家	日本	9	6	16	4	22
ZARA	スペイン	2	4	4	4	18
GODIVA	ベルギー	3	0	4	0	23
GAP	アメリカ	4	1	5	3	9
スターバックス	アメリカ	196	89	237	167	897
ハーゲンダッツ	アメリカ	8	7	8	9	52

出所：各企業ホームページ、大衆点評

2-4. ハイテク産業の集積が進む街、武漢市

武昌エリア南部「光谷」はイノベーション拠点として開発が進む

- ・光谷エリアでは①光電子情報産業、②バイオ健康産業、③環境・省エネ産業、④先進装備製造業⑤ハイテクサービス業を重点産業に設定。2017年から自由貿易試験区を設置。
- ・武漢市は、2018年にハイテク産業の総生産額が3,000億元を突破。2020年には総生産額が4,023億元となり、同市GDPの25%を占めるまでの成長を見せている。
- ・半導体やメモリー、センサー、液晶パネル、光ファイバー、自動運転ソフト、5Gシステム、AIの生産や開発が行われている。2024年11月には、小米（シャオミ）がスマート家電工場の建設を着工。

光谷エリアマップ



主な光谷エリア進出企業

- | ■ 中国企業 | ■ 外資系企業 |
|--------------|--------------|
| ・ 長江ストレージ | ・ 住友電装 |
| ・ 光庭 | ・ フジクラ |
| ・ 華為（ファーウェイ） | ・ デンソー |
| ・ レノボ | ・ シュナイダー（仏） |
| ・ 小米（シャオミ） | ・ ファイザー（米） |
| ・ 天馬 ほか | ・ シーメンス（独）ほか |



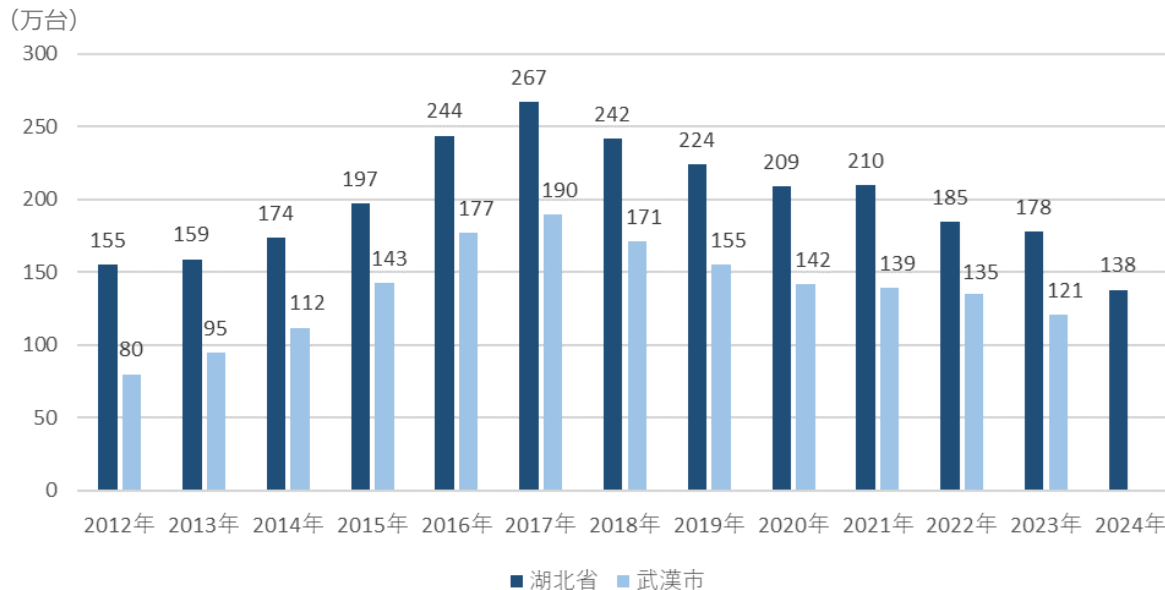
光谷科技会展中心

2-5. 自動車産業都市、武漢市

自動車産業の拠点として有名な湖北省および武漢市

- ・自動車産業は湖北省および武漢市最大の産業であったものの、近年の自動車生産台数は減少傾向にある。直近では、安徽省（省都：合肥市）などに押され、湖北省の生産台数は全国10位にまで落ち込んでいる。
- ・武漢市内には東風汽車、ステランティス（PSA）、東風ホンダ、東風日産、上海GM、吉利ロータス、小鹏、BYD（電池のみ）などが生産工場を持つ。東風ルノーは、2020年に乗用車事業を東風汽車に譲渡。
- ・2024年10月に、東風ホンダの第4工場（新エネルギー車専用工場）が生産を開始。
- ・市内の自動車系サプライヤーは500社（中国系、外資系含む）を超える。湖北省には約1,500社立地。

湖北省および武漢市における自動車生産台数の推移
(2012年～2024年)



出所：湖北省および武漢市統計年鑑ほか（2024年は武漢市データ無し）

中国省・市別自動車生産台数
(2024年)

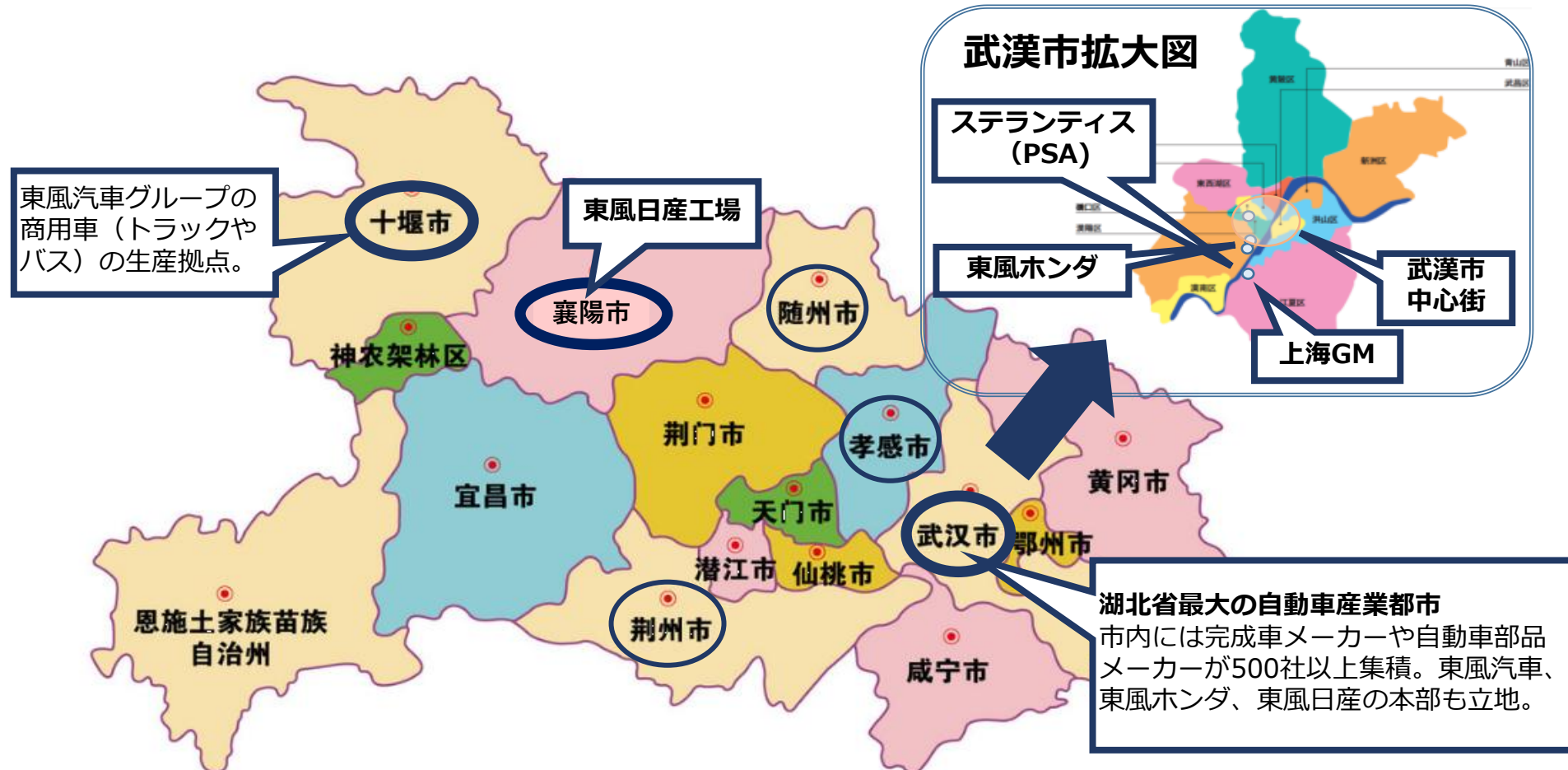
1位	広東省 (570.7万台)
2位	安徽省 (262.0万台)
3位	重慶市 (254.0万台)
4位	江蘇省 (225.0万台)
5位	山東省 (183.8万台)
6位	上海市 (180.7万台)
7位	陝西省 (175.3万台)
8位	浙江省 (169.2万台)
9位	吉林省 (150.7万台)
10位	湖北省 (138.9万台)

出所：国家統計局、各統計局ほか

2-5. 自動車産業都市、武漢市

武漢市を中心に自動車関連産業企業が集積

- 湖北省の主要自動車製造拠点は、武漢市、襄陽市、十堰市の3都市。
武漢市、襄陽市では乗用車を主に製造し、十堰市では商用車を製造している。
- また、武漢市の周辺都市（孝感市、鄂州市等）にも自動車部品メーカーが展開している。



2-5. 自動車産業都市、武漢市

武漢市における自動車産業の動向

1988年	・ 中国・フランス合資自動車30万台生産プロジェクト締結
1992年	・ 神龍汽車（東風汽車とフランス・ブジョーシトロエンの合併会社）設立
1993年	・ 武漢経済技術開発区設立
2003年	・ 東風ホンダ（東風汽車とホンダの合併会社）が同開発区内に設立 ・ 東風汽車の本部が武漢市へ移転
2009年	・ 武漢市内自動車生産台数が約50万台を達成
2015年	・ 上海GM（上海汽車とアメリカ・GMの合併会社）武漢進出 ・ BYDが武漢市に新エネ車工場を建設
2016年	・ 東風ルノー（東風汽車とフランス・ルノーの合併会社）武漢進出 ・ 南京金龍が武漢に新エネ車工場を建設
2017年	・ 東風ホンダが湖北省内で初めて単体で生産額が1,000億円を超える企業になる
2018年	・ 吉利汽車が武漢工場建設を決定 ・ 東風ホンダの第三工場が稼働
2019年	・ 東風日産が武漢工場建設を開始 ・ インテリジェント・コネクテッドカー（武漢）テストモデル区開業
2020年	・ 東風ルノーが東風汽車との合併を解消 ・ 東風汽車傘下の嵐図汽車が設立 ・ 東風ホンダが年間販売台数85万台を達成（過去最高）
2021年	・ 武漢自動運転テーマパークが開業 ・ 小鹏汽車が武漢工場の建設を開始 ・ 華為が武漢ICVイノベーションセンター建設を決定
2022年	・ 東風ホンダが武漢市に新エネルギー車専用工場を建設すると発表 ・ ロータスが経済開発区で新工場竣工 ・ 東風乗用車が武漢市で第2工場を稼働開始
2023年	・ 東風汽車がステランティスの生産拠点を買収
2024年	・ 東風ホンダが新エネルギー車専用工場の稼働を開始
2025年	・ 東風日産が武漢工場における生産の年内停止を発表

出所：長江日報記事および各社webを基にジェトロ作成

2-5. 自動車産業都市、武漢市

「次世代自動車」への投資も活発化

- ・ 武漢市では地場系を中心に、従来の自動車に情報技術や新エネを融合させた「次世代自動車」への投資が活発化（自動運転車やインテリジェント・コネクティッドカー（ICV）など）。
- ・ 2019年9月に国家ICV（武漢）テストモデル区が設置。第5世代移動通信システム（5G）や人工衛星「北斗」による高精度の位置情報システムを活用したタクシー、バス、清掃車などの自動運転車の試験走行実施。
- ・ 2021年1月には「武漢自動運転テーマパーク」も開業。自動運転タクシー、バスなどに体験乗車が可能。武漢車百ICV研究院が中心となり、東風汽車、海梁科技、百度、深蘭科技、智行者、新石器、文遠知行など参画。
- ・ 2021年、東風ルノーが自動運転デモゾーンを武漢に開設。
- ・ 2022年1月、武漢経済技術開発区で中国初の24時間自動運転バスが運行開始。
- ・ 2022年8月、武漢市郊外で百度の完全無人運転のタクシーが商用サービスを開始。自動運転システムには百度が手掛ける「Apollo（アポロ）」が活用されている。
- ・ テストモデル区は拡大を繰り返しており、24年2月27日には、試験営業範囲を長江の向こう岸まで広げ試験運行エリア3,000km²（武漢市総面積の35%）、エリア内住民人口770万人（武漢市総人口の56%）とした。



武漢市内で運行されている
無人タクシー（ジェトロ撮影）

武漢市の自動運転技術開発の詳細については
以下ジェトロの地域・分析レポートも参照。

[武漢市の自動運転技術開発の変遷と展望](#)

2-5. 自動車産業都市、武漢市

2022年のサービス開始以降対象都市を拡大、武漢を重要拠点と明言

- ・ 2022年、百度の運営する無人タクシー配車アプリ「蘿蔔快跑（Apollo Go）」が運営を開始。
- ・ 2022年8月に武漢市と重慶市で国内初となる完全無人タクシーの運用開始後、2024年12月現在までに武漢を含む11都市で運用されている。今後も、サービス利用可能都市を拡大する予定。
- ・ 百度は、武漢を同サービスの重要拠点としたうえで、「2025年以降の黒字化」を目指すと発表。

中国国内における「蘿蔔快跑（Apollo Go）」の利用可能都市
（出所：蘿蔔快跑（Apollo Go）公式サイト）



2024年12月現在、武漢を含む計11都市で運用されている
（北京市、上海市、広州市、深圳市、重慶市、武漢市、成都市、長沙市、合肥市、陽泉市、烏鎮鎮）

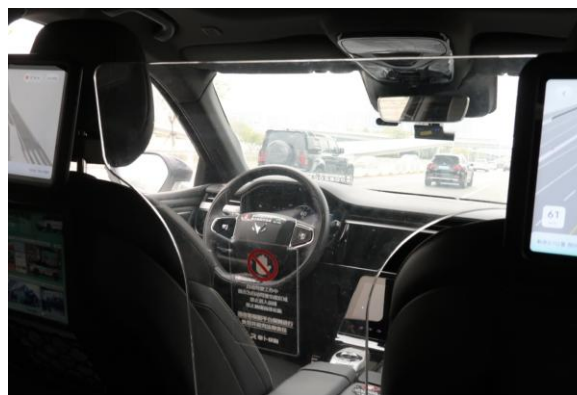
2-5. 自動車産業都市、武漢市

配車方法は通常の配車アプリと同様、運転は丁寧・安全

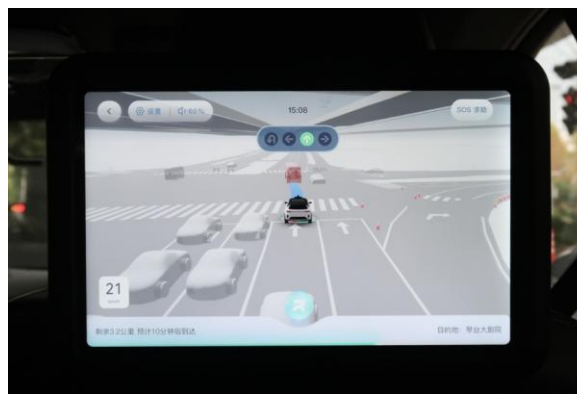
- ・「蘿蔔快跑（Apollo Go）」は、専用アプリもしくはWeChatミニプログラムから利用が可能。
- ・地図上で乗車可能範囲が表示されるため、そこから自身が乗車する場所を選択する。武漢市内においては一部ビジネス中心街を除いて、ほぼ全域において乗車が可能。
- ・運転は急ブレーキなどもなく丁寧かつ安全。車内モニターで車内温度なども調整可能と快適。



武漢市内の「蘿蔔快跑（Apollo Go）」乗車範囲
（青色で囲まれている場所が対象地域）



車内の写真
運転席・助手席には人はおらず
完全無人
（ジェットロ撮影）



スクリーン上で周囲の車両や
歩行者を感知している様子が見える
（ジェットロ撮影）



3. 湖北省（武漢市） 進出日系企業の動向

3. 湖北省（武漢市）進出日系企業の動向

進出日系企業は自動車関連サプライヤーが存在感

- ・ 武漢日本商工会会員企業のうち半数（約70社）が自動車関連のサプライヤー。
- ・ 会員企業数は増加傾向にあったが、直近は横ばい。
- ・ コロナ禍後も進出日系企業はいたものの、現在は新規で進出する企業は見られない。
- ・ 武漢市進出日系企業数：161社（2025年3月時点）
※出所は出典は武漢日本商工会会員企業数、武漢の周辺都市（孝感、鄂州、潜江等）も含む。
- ・ 武漢市在住日本人数：約400人弱

主な進出日系企業（2025年）

製造業	自動車系：	ホンダ、日産、タチエス、ニフコ、エフテック、デンソー、日本精機 スタンレー電気、丸順、TSテック、八千代工業、ヨロズ、理研、小糸製作 中央発條、シークス、住友電装、矢崎、小出鋼管、伊勢モルド パイオラックス、古河電機ほか
	自動車以外：	フジクラ、名幸電子、東レ、井関農機、牧野フライス、加賀電子 信越化学、岩谷産業、日本製鉄ほか
非製造業	小売り・サービス：	イオン、ローソン、セブンイレブン、スターツ、スシローほか
	IT：	ID、シスプロほか
	金融：	みずほ銀行、三菱UFJ銀行
	物流・商社：	三菱商事、三井物産、住友商事、伊藤忠商事、丸紅、豊田通商、商船三井 ANA、日本通運、日本郵船、近鉄物流ほか



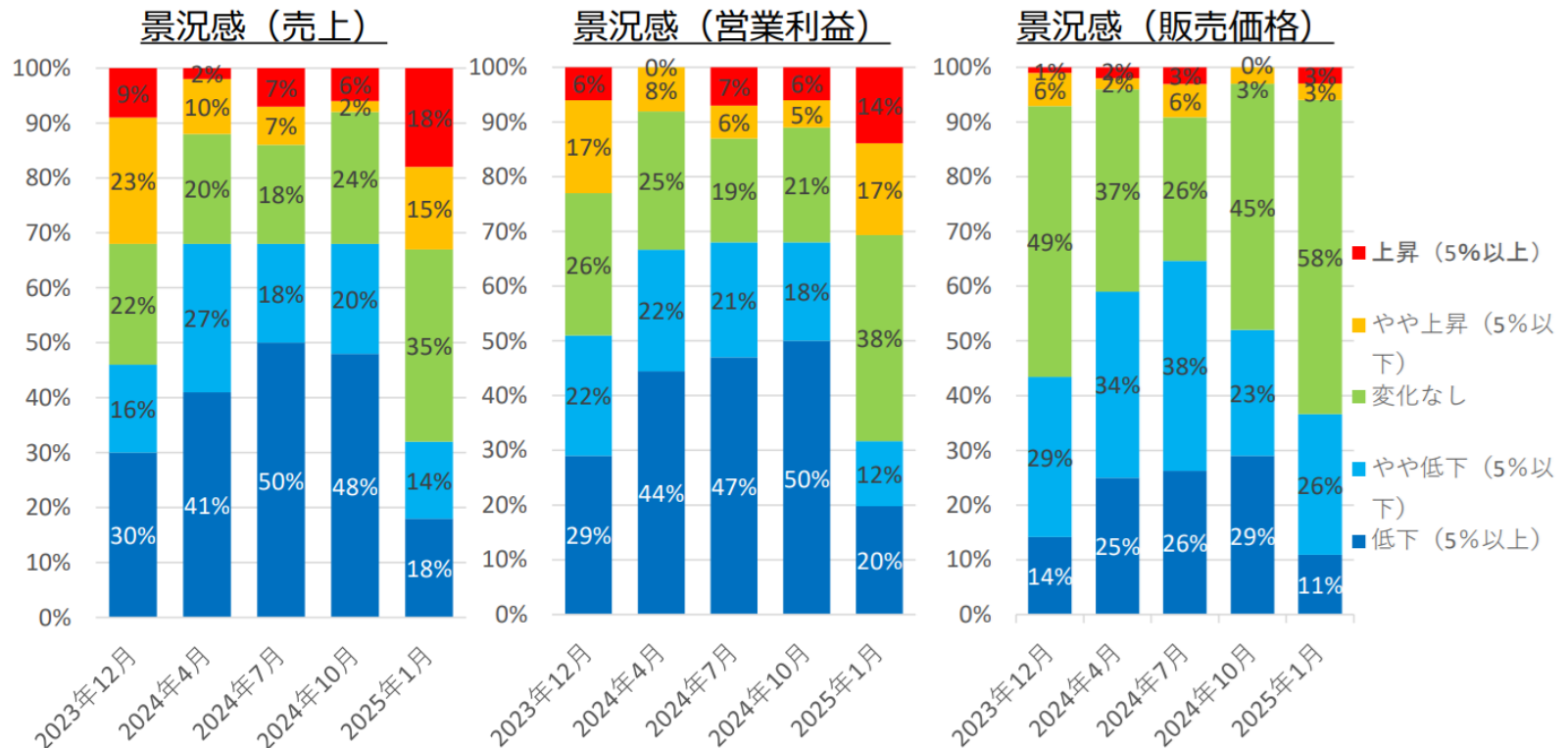
4. 湖北省（武漢市） 進出日系企業の動向と課題

4. 湖北省（武漢市）進出日系企業の動向と課題

景況感は変化無しおよび低下が大部分を占める

- ・ 武漢市を中心とする湖北省進出日系企業を対象に、定期的にビジネスに関するアンケート調査を実施。
- ・ 2024年のビジネス景況感について、売り上げおよび営業利益は年内に悪化を見せたものの年末には横ばい。
- ・ 販売価格も同様に悪化したが、年後半は下げ止まり。
- ・ これらのデータについて、底打ち感はあるものの、引き続き全体としての景況感が良いとは言えない。

アンケート結果（2023年12月～2025年1月）

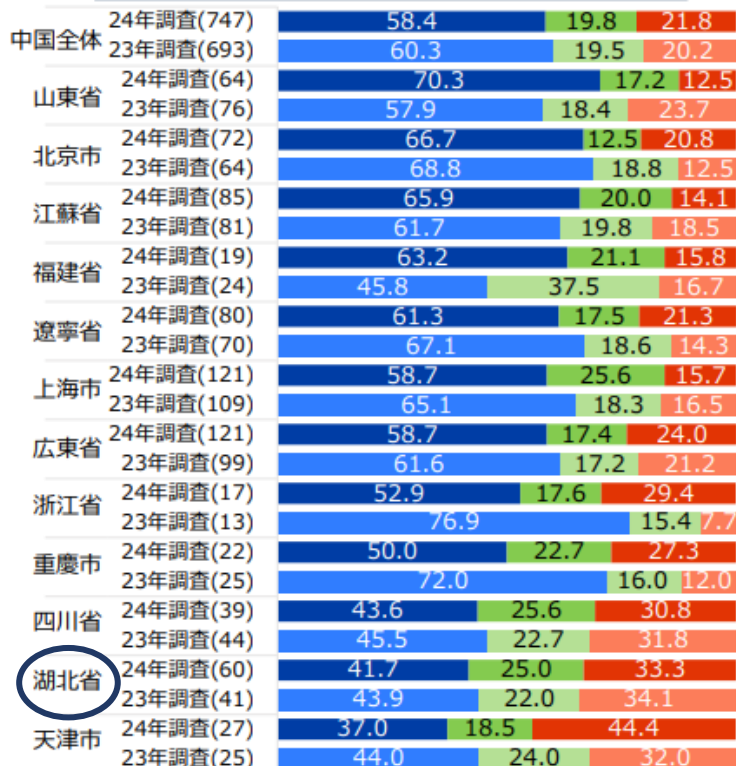


4. 湖北省（武漢市）進出日系企業の動向と課題

営業利益見込み赤字企業が増加、一部は移転・撤退も視野

- ・ 2024年8月～9月にかけて、中国に進出する日系企業を対象に調査を実施。771社が回答。
- ・ 湖北省に進出している日系企業について、営業利益見込みが黒字となった企業は41.7%と2023年調査から2.2ポイントの僅かな低下となった。
- ・ 昨年から続く景況悪化を受けて、事業縮小もしくは移転や撤退を検討する企業も増加。湖北省は、調査対象となった省および市の中で同様の回答を行った企業が2番目に多かった。

2024年の営業利益見込み（省市別、時系列） (%)



■ 黒字 ■ 均衡 ■ 赤字

(注) 「23年調査」は、2023年調査における営業利益見込みに対する回答。以下同。

事業縮小もしくは移転・撤退する企業の内訳（省市別、業種別） (社)

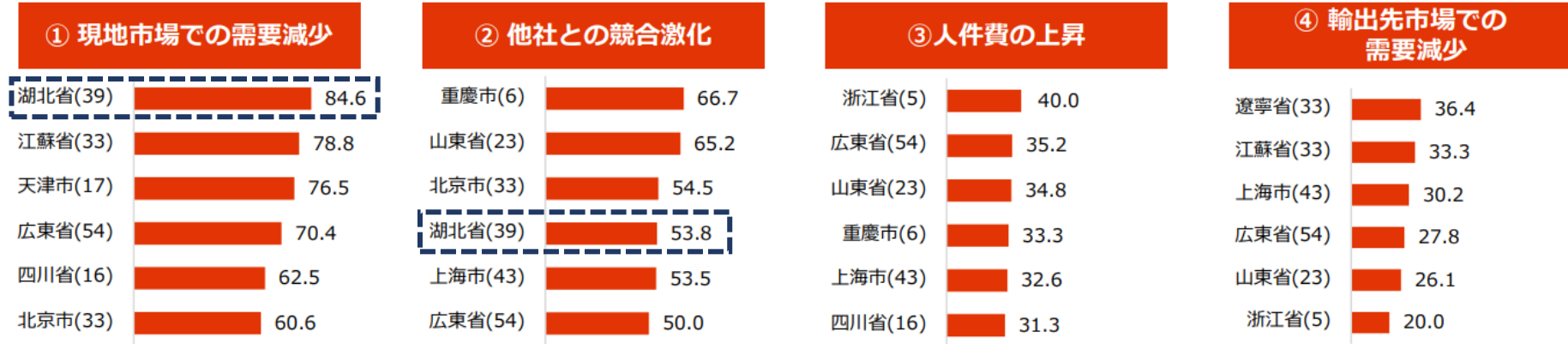
省市別	105	製造業 (416)	65
広東省(122)	27	輸送機器部品(78)	23
湖北省(60)	18	鉄・非鉄・金属(47)	8
上海市(124)	13	プラスチック製品(25)	6
江蘇省(85)	8	一般機械(39)	5
遼寧省(84)	6	電気・電子機器(25)	4
北京市(79)	6	ゴム・窯業・土石(14)	4
山東省(63)	6	繊維・衣服(19)	3
天津市(28)	6	精密・医療機器(15)	3
四川省(39)	5	紙・木製品・印刷(14)	3
福建省(19)	4	その他製造業(31)	2
重慶市(22)	3	非製造業 (346)	40
浙江省(17)	2	運輸業(52)	10
		事業関連サービス(36)	8
		商社・卸売業(76)	7
		販売会社(42)	4
		情報通信業(43)	3
		金融・保険業(30)	3
		その他非製造業(27)	3

(注) 「事業縮小」または「第三国（地域）への移転・撤退」と回答した企業数2社以上の業種、および省市。

4. 湖北省（武漢市）進出日系企業の動向と課題

営業利益見込み悪化の理由は
「現地市場での需要減少」「他社との競合激化」との回答が多数

【営業利益見込み悪化の理由】

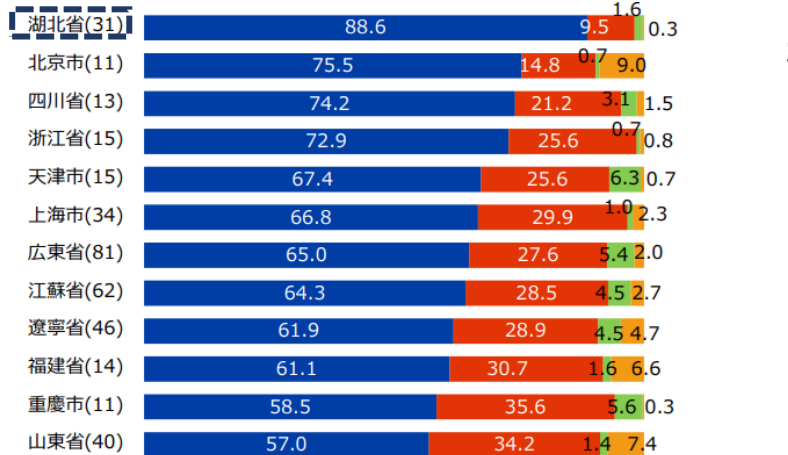


(注1) 有効回答5社以上の省市。複数回答。

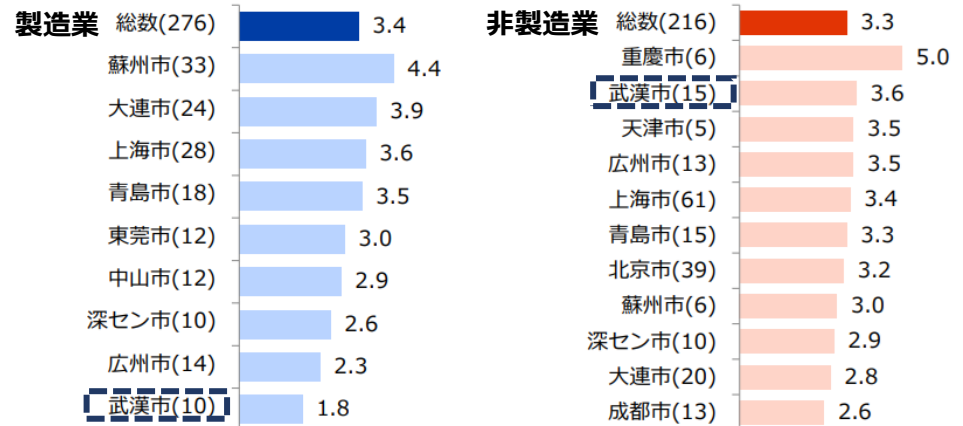
(注2) 改善理由は有効回答182社。

(注3) 悪化理由は有効回答315社。

【原材料・部品の調達先内訳】



【賃金の前年比昇給率】





5. まとめ

5. まとめ

- 湖北省の中心都市である武漢市は、交通・物流インフラ、若く優秀な人材が豊富。また、ハイテク産業や自動車（自動運転）産業の集積に強みを持つ。
- 現地政府は、5GやAI、ビッグデータ、自動運転、ICV等の「デジタル経済」の発展に注力。関連企業の集積・投資拡大を目指す。また、中欧班列（武漢）や鄂州花湖空港の貨物輸送によって、物流ハブとしての機能を高めている。
- 一方で、進出日系企業については、現地企業の台頭、人件費の高騰など様々な要因が重なり、経営状況の悪化が当面の課題。中国については引き続き重要拠点として見なしつつも、「今年の投資は行わない」「前年より投資を減らす」としている在湖北省日系企業が過半数以上。
- 今後は、高成長時代が終わった「ニューノーマル」の中国において、自社の方針立て直し、事業拡大～維持～縮小の決定が求められる。
- また、中国国内における不景気の煽りを受けて、各地方政府は外資誘致にも注力しており、湖北省も例外ではない。現地企業と競争しながらも、必要に応じて協力関係の模索も選択肢となる。

補足：ジェトロ武漢について

体制：所長（高橋）、所員（1名）
ナショナルスタッフ（3名）

管轄地域：湖北省、湖南省、河南省、江西省

主要業務：相談・ブリーフィング対応、
商談会・セミナー・博覧会等のイベント開催、
現地政府機関との事業協力、ビジネス調査、
現地日系団体との連携

Tel: +86-27-5950-0707
Email : PCW@jetro.go.jp